

会 議 録

会議の名称	登米市立小・中学校「学校再編に係る地域座談会」(津山地域)	
開催日時	令和元年 5月16日(木)	
	午後 7時 00分 開会	
	午後 8時 00分 閉会	
開催場所	津山老人福祉センター 2階集会室	
教育委員会 出席者	教育長	
	教育部長	
	教育部次長兼学校教育管理監	
	学校再編推進室長	
	学校再編推進室 学校再編推進係長	
	学校再編推進室 主事	
	学校再編推進室 主事	
参加者数	18名	
挨拶	事務局	開会 午後7時00分
	教育長	開会挨拶
説明	事務局	配布資料に沿って「登米市立小中学校等再編構想」及び「(仮称)学校統合準備委員会の設置」について説明
質問	事務局	意見交換・質疑応答
	出席者1	再編計画の期間について、町域ごとに(仮称)学校統合準備委員会(以下「準備委員会」という。)を設置して約6ヶ月程度で結論を出すとされているが、資料を見ると地域ごとの話し合いの期間が平成31年から平成34年になっている。この6ヶ月とは、どの部分に当てはまるのか。また、統合後、実際に学校を建設となった場合の建設計画のスケジュールについて分かる範囲で教えていただきたい。
答弁	室長	地域ごとの合意を得るための目安として6ヶ月程度としているが、地域によっては、合意を得るのに時間がかかることも想定されるので幅を持たせている。準備期間については、新しい学校を開校するに当たって校則等を決めるための時間、統合後の学校の校舎の修繕や周辺環境の整備に要する時間がどれ位になるか把握はできていないが、現有校舎を新校舎として活用した場合であれば長くても1年から1年半はかかるものと考えており、早くても平成33年には、再編後の学校が開校できればとの考えでスケジュールを策定させていただいた。そのため、この期間については、前期計画の4地域に係るものとし、期間については、幅を持たせている。
質問	出席者1	前期計画の4地域については、全て同時に進めていくのか。それとも合意を得られたところから進めることとするのか。
答弁	室長	各地域の状況によっては、4地域同時に進めるということも考えられる。また、中々合意を得られない地域については、6ヶ月という期間の

		目安はあるが、そこにはこだわらずに取り組んでいきたい。
質問	出席者 2	津山町域での小中一貫校という考えはないのか。
答弁	管理監	「魅力的な学校づくり」の視点から見れば小中一貫校も当然選択肢にはなり得る。また、全国的にも小中一貫校を行う地域は見受けられる。しかし、教育委員会の目指す視点から中学校を考えたときに、10年後には市内の半分の中学校が学年単学級になる。学年単学級になると配置される教員数が減じてしまい、各教科の免許を持っていない先生が授業を教えることになってしまう。また、部活動についても部員数が不足することになってしまう。小中一貫校のメリットも当然あるが、これらのデメリットと合わせ総合的に考えると中学校については、クラス替えができる程度の学級規模があった方が良いという考えで再編構想を策定している。
質問	出席者 3	以前市長に対して小学校よりも中学校を優先して欲しいと要望を挙げたことがあるが、やはり小学校から再編するという方針なのか。
答弁	室長	平成27年に基本方針を作成し、市の小中学校の今後のあり方について取りまとめている。そのきっかけは、少子化による児童生徒数の減少であり、その影響が大きかったのが小学校だったので、まずは小学校から実施することとした。再編構想策定の際には議会等から中学校のほうが少子化の影響が大きく大変であると指摘されているので、基本的には小学校を優先とするものの、今後実施計画を作成していく上では、中学校についての意見も踏まえた上で検討を行うものとする。
要望	出席者 4	子供が横山小学校に通っているが、一番気になることは、中学校の部活のことである。中学生にとっては自分の入りたい部活に入り、その中で頑張ることが学校生活の中で重要な部分を占めるので、可能な限り自分の希望する部活に入部し、その中で、3年間頑張れるようになって欲しい。学級規模についても、学年単学級となると、人間関係に問題が発生した場合に3年間クラスが替わらないよりは、クラス替えができ、毎年新たな人間関係を作ることのできる人間になって欲しいので、是非、中学校についても再編を進めて頂きたい。
答弁	室長	中学校の状況もしっかり踏まえた上で実施計画の策定を行っていく。
質問	出席者 5	いじめ・不登校への対応についてだが、登米市の不登校のレベルは、県内でもワーストクラスだったと記憶しているが、資料の説明では、「環境の変化に伴う子供たちの戸惑いや不安を和らげるため、学校間での児童・生徒交流活動」や「不安や悩みを持つ児童・生徒に対する支援・相談体制の充実」としていたが、現状を考えたときに、この問題を解消することができるのか。
答弁	管理監	不登校については、平成29年度のデータだが、全国平均と比べると下回っている。学校再編にかかわらず、いじめ・不登校対策については、力を入れていかなければならないと考えており、対応を行っている。保

質問	出席者 6	<p>護者アンケートでもその点に対しての不安が多く、できる限りの対応をとっていきたいと考えている。例えば、統合前の学校間での交流会や、統合後については、人的な部分で言えば、教員補助員等を新設統合校に少しでも多く配置できるようにしていきたい。不安や悩みを解消するための取組みについては、相談できる体制作りなど引続き取り組んでいきたい。</p> <p>地域別の小学校の人口推移について、減少率を見ると統合もやむなしかと思うが、今後数年かけて柳津小と横山小を統合したときに、またすぐ第二次の統合が必要ということはないのか。そのことを考えた上での今回の学校再編の検討をしているのか。</p>
答弁	室長	<p>ご発言のとおり統合後も人数が減り続ける見通しとなっている。今回の再編の目的は、複式学級と学年単学級の解消を基本的な柱としているが、津山地域については、柳津小と横山小の2校を統合しても複式学級は解消されるが、学年単学級は解消されないため、他町域との統合も考えなければならない。しかし、町域を越えての移動は、小学校低学年の児童には負担が大きいので小学校については、町域内での再編を基本としている。人口の推移を見ると今回の再編で本当に改善されるか疑問に思うところもあるかもしれないが、通学時の児童の負担を考えると小学校については、町域内に1校は残すということを基本的な考え方とし、今回の学校再編の方針としてまとめている。</p>
要望	出席者 1	<p>学校再編を進める上での要望だが、学校再編はあくまで子供たちの生活、学びの場にとって最良のものであって欲しいし、そこは見失わないで頂きたい。また、地域にとって果たしてきた学校の役割や意味というものは間違いなくあるため、それへの配慮も忘れないようにしていただきたい。実際に学校再編を進めていく上で、数字上の問題で学校再編は仕方がないということで話が進んでいるが、学校が新しく作られるのは、地域が変わる大きなきっかけになるので、仕方がなくできたというのではなく積極的な姿勢や考え方が必要と思う。他の地域から羨ましく思われる学校にするような様々な取組みが必要である。児童数だけの話になると今後も減少していき、いずれ学校がなくなってしまう。ではなく、地域が変わる大きなきっかけとして、もっと戦略的に考えていくことが重要である。他の地域の人が自分の子供を通わせたいとなれば、移住する方も現れるかもしれないので、それらを踏まえた上で再編の目的を定めて欲しい。また、学校の避難場所としての役割について、横山は水害土砂災害の際の正式な避難場所がないので、学校を新設するのであればそういった視点も取り入れて考えて欲しい。</p>
答弁	室長	<p>教育委員会でも、魅力ある教育環境づくり、子供が楽しく学校生活を送れることを一番に再編を考えている。避難場所についても、地域性を考慮し、学校に行けば安心と思えることが一番だと思うので、そこを踏まえた上で取り組んでいきたい。</p>
質問	出席者 4	<p>準備委員会の開始時期は具体的にいつになるのか。</p>

答弁	室長	5月中は各地域で座談会を行うので、その後に委員になっていただく方には改めて説明と依頼をするので、それが終わり次第、早ければ6月中に集まることができればと思う。準備等の期間もあるが、可能な限り早く進めて行きたい。
挨拶	教育長	閉会挨拶
	事務局	閉会 午後8時00分